

全国協議会 ニュース

2015年12月1日発行 第282号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KTビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：野村正満 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

末梢血幹細胞移植と骨髓移植の比較 コーディネート期間短縮 患者生存率に有意差なし

281号で既報のとおり、日本骨髓バンクによる末梢血幹細胞移植（PBSCT）に関わる条件が12月から緩和されます。審議された厚労省の造血幹細胞移植委員会では、PBSCT（51例）と骨髓移植（1486例）とを比較した研究結果と、PBSCT提供者（104例）の安全性に関する検証が示されました。

【移植患者の比較研究】

コーディネート期間（バンク登録から移植まで）の中央値は、骨髓移植が148日だったのに対し、PBSCTは123日で1カ月近く短縮されています。移植後100日の生存率（全例）は、骨髓移植が88.0%でPBSCTは86.3%で、有意差はありませんでした。

【ドナーの安全性検証】

幹細胞を採取するドナーには白血球の増殖を促進するG-CSF（顆粒球コロニー刺激因子）を投与します。投与日数は4日67%、5日30%、3日2%、6日1%で、採取日数は1日87%、2日13%でした。

副作用・合併症の発現状況については、自覚症状・身体所見、疼痛ともG-CSF投与3日目から退院後まで4回にわたるデータ（軽度、中等度、重度、重篤）がありますが、大半が軽度で、重篤は皆無でした。

【骨髓バンクの評価】

PBSCTの条件緩和について、次のように意義を挙げています。

- ・PBSCTは骨髓移植と比較して造血

幹細胞、リンパ球が多く含まれることが特徴であり、これを必要とする患者は多い。

- ・非血縁者間PBSCTの条件が緩和されると、これまで骨髓提供ができなかった方が、新たにドナーになると期待される。
- ・手術室確保、ドナーの自己血採血が不要なことから、コーディネート期間が短縮されるという利点がある。
- ・ドナーの限定条件が緩和されることにより、ドナーと患者に選択する機会が増し、より多くの患者の救命に貢献することができる。

【国際比較】

なお、日本骨髓バンクでの移植数（10月末現在）は1万8813例ですが、このうちPBSCTは130例にしかすぎません。別表のとおり、海外バンク（2014年）と比べると英国を除き「正反対の実態」で、日本でもPBSCTが増加すると見込まれます。

別表 主要骨髓バンクの造血細胞移植数(2014年)

国名	骨髓	末梢血	さい帯血	合計
アメリカ	962	3,066	768	4,794
ドイツ	256	2,063	7	2,326
イギリス	337	63	20	420
日本	1,278	54	1,117	2,451
台湾	10	341	13	364
韓国	11	325	51	387
中国	0	756	-	756

※日本骨髓バンク資料（米独は2013年）

箱根駅伝でPR活動ご協力のお願い

来年1月2日(土)3日(日)の両日、第92回箱根駅伝の東京・御成門などのコース沿道で、2002年から毎年行っている骨髓バンクPR活動を、一緒にしていただける方を募集しています。詳しくは全国協議会までお問い合わせください。

白血病フリーダイヤル相談員募集

全国協議会は、血液の病気の方やその家族などを対象とした電話相談「白血病フリーダイヤル」を運営しています。毎週土曜日(12月31日～1月3日を除く)の午前10時から午後4時まで、血液疾患経験者やその家族、医療・福祉関係者、ボランティアが相談にあたり、第2・第4土曜日には血液内科専門医も対応しています。

新たにボランティア相談員として加わってくださる方を募集します。年齢、経験は問いません。ただし、首都圏在住で、東京都内の相談窓口まで通える方に限ります。3回程度の座学と実地研修5回を経て適性審査修了後に採用の可否を決定する予定です。

ご希望の方は12月25日(金)までに全国協議会事務局へご連絡ください。

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

〈財団マンスリーJMDP(11月15日発行)より抜粋〉

■日本骨髓バンクの現状(2015年10月末現在)

	9月	10月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,296	3,086	455,799	652,089
患者登録者数	238	239	3,082	46,342
移植例数	104	117	-	18,813

■10月の区分別ドナー登録者数

献血ルーム/646人、献血併行型集団登録会/2,311人、集団登録会/68人、その他/61人

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

■10月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 2,763人/20代 70,381人/30代 143,174人/40代 187,748人/50代 51,733人

■10月の20歳未満の登録者306人

■10月末までの末梢血幹細胞移植(PBSCT)累計数：130件

白血病フリーダイヤル 0120-81-5929

毎週土曜日10時から16時まで、医療費の不安などの相談をお受けします。第2・4土曜日には専門医に直接相談できます。

ソニー生命がサポートしています。

運営に助言をくださる顧問職 ①

全国協議会には、運営に対する大所高所からの助言を仰ぐため4人に顧問を委嘱しています。前号に引き続きインタビュー記事をお届けします。



谷口修一さん
虎の門病院血液内科部長
日本造血細胞移植学会理事・評議員

Q 谷口先生は長きにわたり、移植医として骨髄バンク・さい帯血バンクと共に歩んでいらっしゃいますが、先生のお考えを教えてください。

A 移植医として、ほぼ30年間生きてきました。大学を卒業して、まずHLA一致ドナーが得られなければ移植できない時代に自己末梢血幹細胞移植の開発に携わり、1980年代後半は、九州骨髄バンク設立に関与し、最初の骨髄採取も担当しました。1991年に公的骨髄バンクが設立され、国内で3例目の移植例も担当し、骨髄バンクと共に歩いてきたつもりです。2003年虎の門病院赴任後は、ほぼ全ての患者さんに迅速に対応できるさい帯血移植に夢中になり、さい帯血移植の最大の問題点の生着不全もほぼ克服しました。

骨髄バンクは、設立後移植数も増加し、安定していたように思いますが、ここにきて何やら暗雲が漂っています。移植患者数の減少を主因とする経営悪化です。純粋な気持ちで多くの命を救ってきた骨髄バンクが、経営改善という名で患者さんに実質的に負担をかける看過できない事態に怒りさえ覚えます。代替移植法が発展してきたとはいえ、まだまだ年間1000人を超えるバンク移植が行われています。なん

とかなければなりません。

改善するべきだと考えているのは、コーディネート期間の短縮です。現在3~4カ月かかるコーディネート期間を、ドイツでの非血縁者間移植や日本での血縁者間移植と同様に、1~2カ月に短縮することで、移植が必要な患者さんに迅速に対応することができ、また、移植患者数の増加へとつながるのではないのでしょうか。



大谷貴子さん
全国協議会第2代会長

Q 骨髄バンクの立ち上げに携わってから今日までの20年余、患者さんからご相談を受ける機会が多いと思いますが、患者さんの悩みが変化していますがという印象はありますか。

A 確かに変わってきたと思います。以前はドナーさんが見つからない焦りの相談が多かったです。最近では医療者とのコミュニケーション不足からくる医師との向き合い方の相談や、インターネット情報を鵜呑みにして医師とのコミュニケーションが取れない患者さんのお話を聞くことが多くなりました。

Q 現在、全国協議会は財政的に存続の危機に直面しています。患者支援基金を再開継続させるためにもひとことお願いいたします。

A 心が動かされる情報の提供が欠け

Q 患者さんに近いお立場から、当協議会で検討すべき改善点があれば、アドバイス願います。

A 発病後、なるべく早く患者さんに情報をタイムリーに提供できるよう、ホームページの整備やハンドブック「白血病と言われたら」の入手方法の簡略化をしてはどうでしょうか。

Q 全国のボランティアにお言葉をお願いします。

A 患者さんは、ドナーが見つかってからも長期にわたり待つことも多いです。まずはドナー登録の際に納得してもらうまで説明を重ねて、移植を希望する患者さんに迅速な対応ができるよう、ご協力願います。

ているのだと思います。特に患者さんを支援する基金はなんとしても早急に再開できるように各方面に働きかけ、かつ、継続的にご協力いただけるようなシステムを構築する必要があると考えています。

Q 全国のボランティアに激励をお願いします。

A なぜ、このように長きにわたり同じボランティア活動を続けていられるのかと尋ねられると、わたしは次のように答えます。まずは楽しいからです。人財産が毎日毎日増えていきます。それは何ものにも代えがたい楽しさです。そして1人の患者さんの相談に解決が見いだされ、ホッとするとすぐに新たな患者さんから様々な相談を受けます。つまり途中放棄ができない状況が延々続き、そして今に至っています。皆さまも同じだと思います。全ては患者さんのために。そしてそれが自分のためになっているから、続けてくださっているのだと思います。どうぞこれからも、一緒に同じ目的に向かって、そして楽しくお付き合いをいただきたいと願っています。

ドラマ「21歳の別離」公開 TBS オンデマンドで1年間有料

公的骨髄バンクがスタートして間もなくの1994年10月にTBSテレビ系列で放送されたドラマ「21歳の別離(わかれ)」が、有料ですが同テレビの

動画配信サービスで視聴できることとなりました。今月から来年11月まで1年間のサービスですが、書籍の印税に相当する情報使用料は、原作者の遠藤允さんの申し出によって全額、全国協議会に寄託されます。

配信サービス (TBS オンデマンド)

は、テレビやパソコン、スマホなどから視聴できますが、方法は同オンデマンドのホームページを参照してください。1回の価格は税込みで432円です。なお、原作(学研)は既に絶版ですが、文庫版のPDFを全国協議会ホームページ(書籍紹介)に掲載しています。

**厚生労働省移植医療対策推進室
初の医系室長に鈴木章記さん
「小さくても大きなガッツポーズ」**

造血細胞移植を担当する厚生労働省健康局の移植医療対策推進室（従来の疾病対策課から難病対策課に移管）の新室長に10月、鈴木章記さんが就任されました。下関市保健部長だったころ自身の骨髄移植を契機に命をみつめるクレヨン画家に転身した市川武さんが描いた笑顔絵をご了承を得て、顔写真に替え紹介します。



Q 医系初の室長ですが、前任はどちらでしょうか。

A 厚生労働省健康局疾病対策課肝炎対策推進室長でした。肝炎対策はウイルス感染対策のため、現職の移植医療とはまったく異なる分野でした。

Q 辞令を伝えられた時の気持ちはどんなものでしたか。また、実際に就任されてからの印象と、今後の抱負をお聞かせください。

A 今まで法令事務を担当する方が着任してきたポストなので、非常に驚きました。

移植を通じて命についての意識を育むことは、生きる力にプラスになることです。そういった機会が増えることで社会全体が命を考える土台を築き上げられたらいいと思います。構想を実現させるのはなかなか難しいと思いますが、この方向に向かって、結果として患者さんだけのためでなく、世の中全体の幸せ度が上がっていったらいいですね。

Q 10月の審議会で議論された非血縁者間末梢血幹細胞移植の今後について、どうお考えでしょうか？

A 日本ではまだ認知度が低く、情報が少ないのではないのでしょうか。骨髄提供よりも全身麻酔を必要としないなどハードルが低い部分もあり、ドナーとしては社会貢献しやすいという点から世の中に少しでも役立ちたいという善意が表せる仕組みの一つとなりうるのではないかと思います。そのメリットがより多くの患者さんへうまく巡っていくように、行政としては対応していく必要があると考えます。また、非血縁者間末梢血管細胞移植自体が十分知られていないようなので、実際に関わっている方からのご意見やご要望を集めて、改善していけるようにしたいですね。

Q 造血幹細胞移植法が施行されて

丸2年が経ちます。3年経過で見直すこととなっていますが、対策室として何かあればお教えいただけますか

A 現在、試行錯誤の状況です。まずは制定された法の現状と方向性を把握し、検討している段階です。最初から見直しありきではなく、実際どれだけやっつけられるかというところを模索することが必要ではないでしょうか。その上で必要なことがあれば見直すということになると思います。

Q 全国のボランティアへのメッセージをお願いいたします。

A ボランティアの方々は、夢を持って活動を続けていらっしゃると思います。その夢の実現に向けたお手伝いをしていきたいと思います。それぞれが理想を現実になりたいと願う小さなプライドを持ち、日々の達成には小さくても大きなガッツポーズを繰り返して前進できたらいいでしょうね。

自分だけが幸せになるのではなく、人のために何かしたい、人の幸せも願いたいという気持ちは誰しも心に備えているものではないでしょうか。骨髄提供はまさに人のための無償の連鎖で、移植というのは奥の深いことではないかと感じています。

**医療講演会・相談会に90人
神奈川と秋田で25周年事業**

全国協議会設立25周年記念事業の締めくくりとなる医療講演会・相談会が神奈川と秋田で開催されました。

神奈川 10月24日(土)、神奈川県総合薬事保健センターで開催され、ほぼ満席の50人に会場いただきました。個別相談参加者は11人で、悩みを抱えた患者さんとそのご家族が1人20分程度の時間に熱心に相談されていました。東海大学病院の町

田真一郎先生、横浜市立大学病院の山崎悦子先生、順天堂大学病院の原田浩徳先生、東京大学病院の北村聖先生に講師をお願いし、町田・山崎・原田先生には個別相談にもご対応いただきました。(神奈川骨髄移植を考える会 村上忠雄)

秋田 11月23日(月)に秋田県民会館ジョイナスで開催、初冬の気温の中、約40人ご参加くださいました。秋田県での白血病治療の歴史と現状を秋田大学の奈良美保先生、ハブ

ロ(HLA半合致)移植について兵庫医科大学の小川啓恭教授にお話しいただき、疾患別の分科会、移植後の体力維持のために食事の個別対応をしていることや長期フォローアップ外来について看護師の藤井千秋さんからご説明いただきました。質疑応答では晩期障害やGVHD、移植のリスク回避についての展望等を交えて先生方にお答えいただきました。初参加の患者さんからも感謝の言葉をいただき嬉しい限りです。(秋田県骨髄提供者を募る会 菅早苗)

今日もFightでボランティア? ② どうして看護師に? by 杉本 はるみ



伝えきれない「ありがとう」 骨髄バンクを演劇で表現



「演劇で、骨髄バンクを知っていたくことはできないかな」。そんな一言からプロジェクトがスタート、10月18日(日)に名古屋市東文化小劇場で「劇」を上演しました。キャスト、スタッフも一般公募し、脚本も挿入歌もオリジナルで作りました。

参加者には白血病や骨髄バンクについての勉強会を開催、ボランティア活動にも参加していただきました。チケットは完売。患者、ドナー、家族、医療スタッフなどそれぞれの立場の方々の気持ちを大切に忠実に表現しました。劇中の患者さんは移植を受け

て元気になり、ドナーさんに手紙を書きます。「ありがとう」伝えきれない想いを、分厚い手紙に託して……。来場者からは、「骨髄バンクや移植についてよくわかりました」「1回だけではもったいない。もっと多くの人に観てほしい」「ドナー登録してきます」など、たくさんの嬉しい声が届きました。そしてドナー役のキャストは、今回をきっかけにドナー登録してくださいました。ご来場いただいた方々、イベントに関わってくださったすべての方に「感謝!!」。(あいちの会・水谷久美)
<https://www.youtube.com/watch?v=ZLMCSvnJJy8>

今年も代々木公園で雪のイベント

SNOW BANK PAY IT FORWARD 2015 (一般社団法人 SNOW BANK 主催) が7日(土)8日(日)の2日間、

東京・渋谷区代々木公園イベント広場で開催されました。今回は献血カーも配置され、加盟団体のボランティアさんに協力いただき、骨髄バンクドナー登録者64人、献血者101人と大きな成果をあげました。トークイベントには長谷部健渋谷区長も登壇しドナー助成制度にも話が広がりました。



天候は曇り時々雨でしたが、全国各地からたくさんの方が集まってドナー登録いただき、説明員としては感無量でした。雪とスノーボードとドナー登録会のイベントですが、おもちゃくじ募金も好評で、ちびっ子たちが一生懸命くじを引いている姿も可愛かったです。首都圏加盟団体ボランティア同士、親睦を深めることができ、とても実りのあるイベントとなりました。

(千葉の会・河口郁子)

越谷で「いのちの輝き展」 大泉逸郎さんのミニトークも



10月1日(木)から12日間、埼玉・越谷レイクタウンで「いのちの輝き展」を開催しました。「いのちの輝き展」は石巻市在住の小野さんご夫妻を中心に、主に東北地方のイオンモールで開催してきましたが、小野さんのご紹介で、埼玉での開催が可能となりました。配布したチラシは3500組、ドナー登録者数41人でした。通りがかりの方で、骨髄提供経験者4人(うち1人は2回提供とのこと)との嬉しい出会いもありました。大ヒット曲「孫」の大泉逸郎さんとのミニトークイベントもあり、多くの方々に骨髄バンクの必要性をご理解いただけたものと思っています。(大谷貴子)

宇部まつりでフリーマーケット

11月1日(日)、宇部まつり(山口県宇部市)のフリーマーケットに参加し、ブースでのバザーをはじめ、骨髄



バンクや小児がんの啓発を行いました。市内の大きなイベントということもあり、開店前から続々とお客さんが来店し、準備していた品の半分が1時間で飛ぶようになり、全国協議会よりいただいた「おもちゃ」も寄付価格で出品し完売しました。

お客さまから、「私、登録しています」「資料もらっていいですか?」「にこスマカレンダー知っています」など嬉しい声をたくさんいただきました。

フリーマーケットを通じ、多くの方に骨髄バンクを啓発できた活動となりました。(骨髄バンクを支援する山口の会・猶絵美)

【お詫び】協議会ニュース11月号第3面に誤りがありました。ご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。

①グリーンリボンフェスタの見出しで「ドナーがハーフマラソン完走」とありますがハーフマラソンを完走された中山武彦さんは「元患者さん」です。

②4コマ漫画連載記事中「杉本はるみさん(埼玉県在住)」とありますが、杉本はるみさんは「千葉県在住」です。

心からのご寄付に感謝申し上げます ●10月21日～11月20日(敬称略)

学校法人塩原学園 本庄第一高等学校 現金 50,000円	豊田 さやか 現金 5,000円	●志村大輔基金
株式会社深興小林組 小林 保則 現金 20,000円	黒田 多喜男 現金 10,000円	ワタナベ 現金 500円
パワーバランスジャパン株式会社 現金 887円	塩谷 泰人 現金 1,000円	ワタナ 現金 500円
株式会社ジェイ・ティ・プロダクション 代表取締役 鶴賀 二郎 現金 7,059円	山村 詔一郎 現金 2,000円	●こうのとりマリーン基金
一般財団法人 日本パブテスト連盟 医療団 日本パブテスト病院 現金 20,000円	匿名 現金 5,000円	タカハ 現金 400円
神奈川骨髄移植を考える会 現金 20,000円	匿名 現金 1,450円	ノブタ 現金 1,000円
山中 功子 現金 10,000円	●白血病患者支援基金	ミヤ 現金 400円
	株式会社 THINK フィットネス 現金 17,348円	●募金箱
	青木 英子 現金 30,000円	株式会社クスリのアオキ 現金 859,857円
	中山 雅雄 現金 2,000円	イオン九州株式会社 イオン都城店 現金 4,982円
	●佐藤さち子患者支援基金	スノーバンク 現金 12,267円
	三森 裕 現金 30,000円	としまふれあいバザール 現金 18,136円
	梅原 保 現金 20,000円	
	匿名 現金 2,000円	

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754
普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会